

果たしてどんな舞台に
『真夜中のサーカス』

文／榎谷 伸夫（八戸市公民館々長）

昨年5月の公民館特別企画演劇公演、三浦哲郎原作、脚本：榎谷、演出：三浦哲郎「スカシユリの丘の向うへ」ユタよお前はどこへいく」が終わった後、次回の公演について、演出の三浦氏と語り合った。やはり20代〜30代の若い人たちを中心にしたもの演じていきたいという点で一致した。個人的には、現代社会で、生まれ、思い悩む若者たちの姿を描きたいという思いが膨らんでいた。

三浦氏は、途中、思いついたように、「むかし読んでんだけど、内容は断片的にしか覚えていないけど、三浦哲郎の真夜中のサーカスは面白かったという記憶があるんだ。短編集だったと思う。」

「真夜中のサーカス」！
未読だった僕は、表題に惹きつけられた。
「おもしろそうな題名だ。
芝居にしたら楽しそうだ。
よし、それに挑戦してみよう。」

12月。ぼつぼつ書き始めなければ。さつそく書店に注文。ところが、「絶版で注文には応えられない」との答え。Amazonにもない。台本を書くためには、長期に手元に置いておかなければならない。図書館からは借りられない。そこで、三浦文学顕彰協議会の旧知のM氏に電話をしたが、M氏も持っていないし、読んでいないという。だがM氏は、さつそく会員に連絡をとり、本を持っている方を探し出し、長期に貸して下さる了解をとっていただいたのだ。M氏に感謝だ。

昭和48年発行とある。勇んで『真夜中のサーカス』を読み始めた。舞台は北辺のさびれた港町奈穂里。モデルは鮫かな？ 白銀かな？ 湊じゃないよな。いろんな想いが交錯した。



「木戸が開く前に」「綱渡り」「パレード」「魔術」「寸劇」「バントマイム」「スボットライト」「檻」「空中ブランコ」「ジントラの嘆き」「鞭の音」「赤い衣装」「小人の曲芸」「火の輪くぐり」。14の短編。まさに楽しいサーカスを彷彿させる表題ばかり。しかしどれも暗かった。哀しい物語ばかりだ。表題に裏切られた気分になった。

山本周五郎「季節のない街」を映画化した黒澤明の「どですかでん」を思い出した。そう、映画ならともかく、舞台にするのはちよつと厳しいな。東京在住の演出：三浦氏に連絡をとる。「どうですか？ 八戸版ですかでんでいきましたよ」との答え。三浦氏の高校同級生の映像作家K氏に映像を依頼し、唄をソプラノ歌手の小寺彩音に依頼したという。

●筆者近況

2月26日の南部会館での「神が降りてきた 仏が降りてきた 笑いが降りてきた」をプロデュース。超満員で大好評。来年もとの声多数。現在4月30日、鮫生活館で開催予定の「鮫神楽発表会」へ向けて、演劇の稽古と同時進行中。ちよつと疲れ気味。

八戸東高等学校演劇部自主公演

第1部：「NO MUSICAL NO LIFE」第2部：オリジナルミュージカル「Dig」 久しぶりの一般公開となっております。たくさんの方々のご来場をお待ちしております。【日時】4月30日（日）15:00開演 ※開場は30分前 【場所】八戸市公民館 【料金】無料 【問合せ】八戸東高等学校 ☎0178-43-0262

演劇空間 スペースベン

～演劇好きのための、演劇の場～

※特別番組以外 金曜日は19時30分～、料金は一般前売500円
大学生以下前売200円（当日それぞれ100円増し）

※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい

八戸市柏崎1-11-8 TEL:080-6025-0990 FAX:050-3588-8350
E-MAIL:owner@spaceben.com URL:https://spaceben.com/



FANS FRIDAY AMUSEMENT NEGATIVE SHOP

FANS予定▶第1522～1525回

「だべり場」及び「かたり場」、随時開催しています。
(演劇公演ではございません)

WHAT'S
"FANS"?

多目的スペース「SpaceBEN」にて、毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。

— 一般前売500円 / 大学生以下前売200円（当日それぞれ100円増） —